

## 令和5年度 第1回刈谷市ごみ減量化推進会議議事録

日 時	令和5年10月4日（水）午後2時00分～午後3時30分
場 所	刈谷市役所7階 701会議室
出席者	ごみ減量化推進会議委員 15名出席／18名（別添委員名簿の通り） 産業環境部 伊藤部長 ごみ減量推進課 熊澤課長、平出課長補佐、奥村係長、横田、三浦
議 題 等	一般廃棄物処理基本計画の素案について ・第1章～第3章、第5章の振り返り ・第4章 ごみ処理基本計画 ・第6章 生活排水処理基本計画
<p>会議の説明等【事務局 熊澤課長】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・・・配布資料の確認。</li> <li>本日は委員18名中15名が出席。過半数の出席であるため会議として成立。</li> <li>以後、榊原会長を議長とし、次第に沿って進行。</li> </ul> <p>1 あいさつ</p> <p>(1) 会長あいさつ</p> <p>【会長 榊原委員】</p> <p>：この会議は市民や各団体がごみ減量、適正処理の施策についての意見を交換する場である。現行の計画や、来年度に策定する刈谷市一般廃棄物処理基本計画は刈谷市の取り組み姿勢がよくわかるものであると思うが、より一層よいものにするため、活発な意見交換をお願いしたい。</p> <p>2 議題【事務局 平出】</p> <p>一般廃棄物処理基本計画の素案について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・・・資料「一般廃棄物処理基本計画 素案」に沿い、計画の内容について説明。</li> <li>なお、第1～3章および第5章については前回会議にて協議済みであるため、簡単な振り返りに留め、第4章および第6章を中心に説明。</li> </ul> <p>&lt;第4章についての意見等&gt;</p> <p>【消費者生活学校 作田委員】</p> <p>：ごみの分別は、各個人の知識量や努力が直結するものであろうが、紙容器の分別について、分別され出される量が少ないと感じる。「燃やせるごみ」として回収できるものの種類が多く、とりあえず「燃やせるごみ」の袋に入れておけばいい、と思っている人が多いのではないかと考えている。計画の中にごみの有料化についての記載があるが、むしろ「プラ製容器包装」や「紙製容器包装」の指定袋の値段は大きく下げ、「燃やせるごみ」の袋と差を設けることで、分別を促すような手法を検討することも必要ではないか。</p> <p>【事務局 平出】</p> <p>：資料 p.57 の「家庭ごみ有料化の検討」については、袋の販売価格に処理費用を転嫁する形で行うものである。金額についてはこれから具体的に検討していくものであるが、意見にあったように、各種類の袋の金額に差をつけることも方法のひとつであろうと考えている。</p>	

**【刈谷市いきいきクラブ連合会 塚本委員】**

：ペットボトルの廃棄方法について、ラベルやキャップを外して出すようにしているのはなぜか。ペットボトルもラベルもどちらもプラスチックだと思うが、リサイクルの過程で必要になるのか。教えてほしい。なるべく簡単に分別できた方が多くの市民は取り組みやすいと思うが、どうか。

**【事務局 奥村】**

：ペットボトルと、ラベル・キャップ等はリサイクルの方法が異なる。ペットボトルのリサイクルの過程で、ラベルやキャップは異物として除去し、別のルートでリサイクルしている。このため、排出時に市民に分別の協力をお願いしているものである。

<第6章についての意見等>

**【刈谷市小中学校 PTA 連絡協議会 緒方委員】**

：p.83 の汚水衛生処理率について、100%に至らない理由についてはどのようなことが考えられるか。

**【事務局 奥村】**

：合併処理浄化槽への切り替えについては、市が補助金を出しているものの、個人の費用負担が発生する。周囲に下水道が整備されていても、接続工事には数十万円がかかる。このことが、全てが円滑に切り替えられない理由であると考えている。

**【東洋衛生 池邊委員】**

：汚水衛生処理率の100%達成を狙い、今後補助金を増額する可能性はあるか。

**【事務局 奥村】**

：補助金の増額について、具体的に検討はしていない。

<全体を通しての意見等>

**【あいち中央農業協同組合 鈴木委員】**

：この計画の中には様々な施策が挙げられている。どれも鋭意取り組んでいてもらえるものと思っているが、見直しのタイミングで、それぞれの施策について適切に評価し、目標とのギャップが生じた理由を分析して欲しい。また、その分析をわかるように公表してほしい。

**【愛知教育大学 榊原議長】**

：この地域では、2000年に東海豪雨があった。そういった災害時には多量の廃棄物が発生する。その際に発生するものは、分別が不可能な混合廃棄物である。刈谷市は、多くの企業の協力を得て、収集・処理困難物への対応を充実させていると考えているが、災害時の混合廃棄物には、通常の廃棄対応が間に合わないことが予想されるため、緊急時の対応策の検討も十分にしていってほしいと思う。また、今後の啓発や情報発信の方法として、従来の紙での方法に加え、スマートフォンを利用した手段を取り入れていってほしいと考えている。

**【消費者生活学校 作田委員】**

：p.58の有機性廃棄物の資源化の推進について、消費者生活学校では、食用油を利用した廃油石鹼を作成しているが、給食センターの廃油の資源化はどのように行っているか。

**【事務局 三浦】**

：一般的に、固形燃料として活用しているものと考えている。詳細を確認し、後日再度説明をさせてほしい。

**【消費者生活学校 作田委員】**

：消費者生活学校では、リサイクルプラザ「エコくる」というものを行っている。利用者は増えていっているもののまだ認知度は低いと感じているため、市の広報媒体や公共連絡バス「かりまる」などで宣伝を行ってもらえると非常にありがたいと思っている。

**3 その他【事務局 平出】**

・・・本日の議題である刈谷市一般廃棄物処理基本計画の素案については、11月にパブリックコメントを実施する。第3回のごみ減量化推進会議は、パブリックコメント実施後の12月21日午前10時から、市役所503会議室で実施する予定。

次回会議は12月21日（木）午後10時